

2/22 変化してきた人々の暮らしを体験



▲「タオルを1枚洗うのにすく時間がかかる」と洗濯板を使った手洗い体験。

北条東小学校の3年生54人が、炭火アイロンや洗濯板などの古い道具を使った「昔の暮らし」を体験しました。

NPO法人まちづくり北条の会員に道具の使い方を教わった児童は、実際に手にとって挑戦。「アイロンなど重いものがたくさんあった。昔の人は力持ち。教科書で見るだけと違い、使い方がわかって頭に残った」と暮らしの変化を学びました。

2/23 市内外で力強い太鼓を披露



▲北播磨青少年本部長表彰を受賞した、ひまわりっ子クラブのメンバー。

小野商工会館で開催された「こころ豊かな人づくり500人委員会（北播磨ブロック）」で、次代を担う青少年の健全育成に貢献したとして、ひまわりっ子クラブが表彰されました。

障がいのある子どもとその親を中心とする36人のクラブは、月2回和太鼓の練習をして市内外のイベントで披露。今年、8月に行われる「加西サイサイまつり」などで披露する予定です。

3/7 絶滅危惧植物「ミズトラノオ」を守ろう



▲環境省のレッドリスト絶滅危惧Ⅱ類に指定されているシソ科の多年草「ミズトラノオ」の定植作業を行う児童ら。

富合小学校の3年生29人が、昨年12月から育てていた「ミズトラノオ」の苗30株を播磨農高へ持参、同校のサイエンス部11人と協力してプランターへ移植しました。環境体験学習の一環です。

「ミズトラノオ」は富合地区などのため池に生息し、近年は池の改修等で減ってきています。児童らは、葉がつく5月ごろに同小のひょうたん池に植え替え、秋に薄紫色の花が咲くのを楽しみにしていました。

3/7 一乗寺開山堂が兵庫県登録文化財に



▲県登録文化財になった一乗寺開山堂。

法華山一乗寺の開山堂が、兵庫県登録文化財に北播磨で初めて登録されました。県登録文化財は、保存と活用が特に必要とされる有形文化財（建造物）で、開山堂を含めた登録数は19になりました。

寛文11年（1671年）建築の開山堂は、内部には、同寺を開いた法道仙人をまつる入母屋造の宮殿を安置。外部には、鳥獣を題材とした墓股（かえるまた）や木鼻などの彫刻が配されています。

2/24 市内在住の外国人と市民の交流



▲司会者から出身国を聞かれ、手を挙げて答える参加者。

加西市国際交流協会は、多文化共生社会への理解を広めるため、外国人による日本語スピーチや楽器演奏、書道展示などを行う「かさいウィンターフェスティバル」を開催しました。

参加した市内在住の5カ国40人は、日本でのエピソードを身振り手振りを交えた日本語で披露したり、会場に集まった約400人と中国やインドネシアなどの言語で話したりして交流を深めました。

2/26 ふたご・みつごの親が交流



▲「おそろいの服を着せることができるので楽しい。いろいろと周りから注目されます」と体験談を語り合いました。

加西市は、昨年6月のタウンミーティングで要望のあった多胎児育児の支援の一つとして、「ふたご・みつご交流会」を善防公民館で行い、親子20人が参加しました。

親同士が「同時に泣くと大変だけれど、楽しそうに遊んでいる姿を見るとうれしくなります」などと日頃感じていることを情報交換することで、育児への不安を和らげていました。

3/9 自分たちの住むまちを大切に



▲播磨横田駅以外にも、播磨下里駅（2/16）、法華口駅（2/17）、長駅（3/16）の清掃活動を行いました。

善防中学校の生徒20人が、ボランティアで北条鉄道・播磨横田の駅舎などを清掃しました。同校の教師が、ボランティア活動の大切さや地域を思う心を育んでもらおうと計画しました。

生徒らは「活発な地域のボランティア活動の心を受け継いでいきたい」と、駅や周辺のゴミを拾ったり、トイレ掃除をしたりして熱心に奉仕活動に取り組みました。

3/18 全国作文コンクールで最優秀賞



▲応募総数1,872点の頂点に。大好きな北条鉄道の社長になって「いつも乗客でいっぱいになりたい」と安富君。

富田小学校6年生の安富健人君が、第6回「小学生『夢をかなえる』作文全国コンクール」（日本FP協会主催、文部科学省などが後援）で最優秀賞に輝きました。

題名は「みんなに愛される北条鉄道をめざして」。弟と二人きりで旅した九州で、鉄道がますます好きになった。大学などで専門的な知識を身につけて入社したい。国内外の鉄道に乗って経験を重ね、もっと市民の役に立つ北条鉄道にするのが将来の夢と語っています。